

第 1 回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時：平成 20 年 2 月 20 日（水） 午前 10 時 00 分

場所：男鹿市役所 3 階第一会議室

出席委員 (19人)

会 長	木 村 一 裕			
副 会 長	大 高 秀 雄	伊 藤 正 孝		
1号委員	大 滝 和 彦			
3号委員	佐 藤 正 美			
4号委員	遠 藤 正 幸	三 浦 源 蔵	齊 藤 芳 博	
	諸 橋 磯 光	佐 々 木 明	鎌 田 栄 三	
	二 田 良 英			
5号委員	齊 藤 登	飯 澤 信 夫	石 垣 之 輔	
	石 黒 茂 雄	高 桑 繁	鈴 木 俊 治	
6号委員	木 元 利 明			

代理出席 (2人) (委員名) (代理者)

2号委員	保 坂 啓 一	眞 柄 幸 治
5号委員	佐 々 木 一 義	武 田 進 芳

欠席委員 (5人)

4号委員	西 田 直 人	山 本 次 夫
5号委員	山 下 正 三	仲 村 英 典
6号委員	柳 楽 芳 雄	

オブザーバー (1人)

- ① 東北運輸局秋田運輸支局 首席運輸企画専門官 佐 藤 幸 彦

出席事務局職員

- ① 総 務 企 画 部 長 板 橋 継 喜
- ② 企 画 政 策 課 長 下 間 秀 春
- ③ 企 画 政 策 課 主 幹 杉 本 光
- ④ 企 画 政 策 課 課 長 補 佐 畠 山 喜 代 和
- ⑤ 企 画 政 策 課 主 査 伊 勢 谷 毅

第 1 回 男鹿市地域公共交通活性化協議会

日時：平成 20 年 2 月 20 日 午前 10 時から
場所：男鹿市役所 3 階 第 1 会議室

次 第

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ

4. 報告事項

- (1) 男鹿市地域公共交通活性化協議会設置要綱について

5. 議 事

- (1) 会長の選任について
- (2) 協議会規約の決定について
- (3) 副会長の指名について
- (4) 議事録署名委員の選任について
- (5) 監事の選任について
- (6) 事務局規程、財務規程の決定について
- (7) 一般乗合旅客自動車運送事業の路線一部廃止について
- (8) 平成 20 年度事業計画(案)について
- (9) 平成 20 年度予算(案)について

6. その他

7. 閉会

午前 10 時 00 分開会

○事務局 下間企画政策課長（事務局長）

時間になりましたので、始めさせていただくわけですが、開会の前にお手元に配布させていただいております資料を確認させていただきます。1 枚目に次第であります。2 枚目に委員の名簿、それから 3 枚目に本日の出席者名簿、それから 4 枚目、1 ページの裏表印刷となっておりますが、設置要綱、それから 5 枚目からの 12 枚の綴りとして、中央交通からの路線の一部廃止申し入れ書の内容の写し、それに A3 版の図面を添付しております。その後に、事業計画の案、それと最後に収支予算案となっております。また、協議会の規約の案及び事務局規程案並びに財務規定案については、事前に配布させていただいております。本日持参をお願いしておるところであります。お持ちでない方がおられましたら、恐れ入りますが申し出願います。規約の案と事務局規程それから財務規定の両案について、お持ちでない方がおられましたら申し出願いたいと思います。よろしいでしょうか。

そうすれば、時間ですので、ただいまから、男鹿市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。私は、本日の進行を努めさせていただきます、事務局の企画政策課長の下間と申します。よろしくお願いいたします。それでは、お手元の次第に従い進めさせていただきます。

はじめに、委嘱状の交付であります。皆様のお手元に委嘱状を配布させていただいております。ご紹介により、委嘱状の交付に変えさせていただきたく、よろしくお願いいたします。それでは、協議会設置要綱第 3 条に掲げる順に従いまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。

はじめに、東北運輸局秋田運輸支局首席運輸企画専門官の大滝様でございます。

○大滝委員

大滝です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局

次に、秋田県建設交通部建設交通政策課上席主幹の保坂様は都合により欠席されておりますが、建設交通課の眞柄主任が代理出席されております。

○眞柄代理

秋田県建設交通部建設交通政策課の眞柄と申します。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿警察署地域兼交通課長の佐藤様でございます。

○佐藤委員

地域兼交通課長の佐藤です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、秋田地域振興局建設部企画道路課長の遠藤様でございます。

○遠藤委員

遠藤です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿市産業建設部建設課長の三浦様でございます。

○三浦委員

三浦です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社総務部長の西田様は、本日都合により、欠席でございます。次に、秋田中央交通株式会社営業部長の齊藤様でございます。

○齊藤委員

秋田中央交通、齊藤でございます。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部長の諸橋様でございます。

○諸橋委員

諸橋です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、秋田中央交通労働組合書記長の佐々木様でございます。

○佐々木委員

どうもおはようございます。佐々木です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿交通株式会社取締役の鎌田様でございます。

○鎌田委員

はい、男鹿交通の鎌田です。どうも。

○下間事務局長

次に、男鹿市商工会事務局長の二田様でございます。

○二田委員

男鹿市商工会の二田と申します。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿市観光協会副会長の山本様は、本日都合により、欠席でございます。次に、椿地区六部落会長会会長の齊藤様でございます。

○齊藤委員

齊藤です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、戸賀地区区長会会長の飯澤様でございます。

○飯澤委員

飯澤です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、北浦地区郷中会長連合会会長の石垣様でございます。

○石垣委員

石垣です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿中振興会会長の大高様でございます。

○大高委員

大高です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、五里合振興会会長の佐々木様は、本日都合により欠席でございますが、事務局長の武田様が代理出席されております。

○武田代理

武田です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、若美地区町内会長連絡協議会会長の石黒様でございます。

○石黒委員

石黒です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、脇本振興会会長の高桑様でございます。

○高桑委員

高桑です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、船越振興会会長の鈴木様でございます。

○鈴木委員

鈴木です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

次に、男鹿市老人クラブ連合会会長の山下様は、本日都合により、欠席でございます。
次に、男鹿市 PTA 連合会副会長の仲村様でございますが、まだお見えになってございません。次に、秋田大学工学資源学部教授の木村様でございます。

○木村委員

おはようございます。

○下間事務局長

次に、男鹿市議会総務委員長の柳楽様は、本日都合により、欠席でございます。次に、男鹿市議会総務副委員長の木元様でございます。

○木元委員

木元です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

最後に、男鹿市副市長の伊藤でございます。

○伊藤委員

伊藤でございます。どうかよろしくお願い申し上げます。

○下間事務局長

以上で、委員のご紹介を終わりたいと思います。次に、男鹿市長からあいさつがあります。

○佐藤男鹿市長

みなさん、おはようございます。本日は、男鹿市地域公共交通活性化協議会の開会にあたりまして、一言皆様に御礼のごあいさつを申し上げたいと存じます。

皆様には、本協議会の委員をお願い申し上げましたところ、快くお引き受けいただきまして、また、本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございました。

早いもので、新男鹿市が誕生して、三年が経とうとしております。この間、皆様には、市政運営に関しまして、多大なるご支援、ご協力をいただいております、この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、本市の路線バス利用者は、少子高齢化による人口減少や自家用車の利用拡大の影響で、年々減少している状況でございます。

一方で、バス事業者においては、市内全路線の収支が赤字の状況でありまして、事業者の負担はもとより、市からバス事業者への補助金も、年々増加傾向になってございます。昨年、本市内の主たる路線バス事業者である秋田中央交通株式会社からは、市内のバス路線について抜本的な再編の必要性があるとの主旨のお話を伺っております。

このようなことから、市では、地域に相応しい公共交通計画を構築いたしまして、その中で事業を実施してゆくため、本協議会を設置したものであり、平成 20 年度においては、本市の地域特性に合致した地域公共交通総合連携計画を、委員の皆様の協議によって策定していただきたいと考えております。

バス路線の維持については、これまで「男鹿市生活バス路線運行維持対策協議会」で協議をしながら対応してまいりましたが、新しい法律が施行されまして、地域で公共交通の将来計画を定める環境が整ってきているものと認識いたしております。

今後、本協議会におきまして、委員の皆様からは、忌憚のないご協議を賜り、計画を策定していただきますようお願い申し上げまして、簡単でございますが、ごあいさつとさせていただきます。

どうぞひとつ皆様にはご難儀をかけますが、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○下間事務局長

誠に申し訳ありませんが、市長は所用のため、ここで退席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

～市長退席～

遅くなってすみませんが、事務局の紹介をさせていただきます。

始めに、事務担当部局であります、総務企画部長の板橋でございます。

○板橋部長

板橋です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

総務企画部企画政策課の主幹の杉本でございます。

○杉本主幹

杉本です。よろしくどうぞよろしくお願いいたします。

○下間事務局長

同じく課長補佐の畠山でございます。

○畠山課長補佐

畠山です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

同じく主査の伊勢谷でございます。

○伊勢谷主査

伊勢谷です。よろしくお願いいたします。

○下間事務局長

それでは、次の「次第」4の報告事項に入ります。事務局畠山から、協議会設置までの経緯と併せ、協議会設置要綱について、説明をさせていただきます。

○畠山課長補佐（事務局）

それでは、ご説明いたします。

昨年の6月に秋田中央交通様より、「男鹿市内のバス路線については、新たな運行形態の創設が急務と考えており、男鹿市内路線の廃止を含めた路線の再編が必要である。」旨のご提案をいただきました。

このご提案を受け、市では、7月に関係各課の課長7名からなる庁内検討委員会を設置して、第1回目の会議を開催しております。この中で、秋田中央交通様から「市内バス路線の現状と課題」について説明を受け、今後の市内の路線バス再編の方針といたしまして、「学校統合を考慮する。」、「路線バスでなければならない範囲を見極めていく。」、「福祉関係では、通院と買物目的を考慮する。」ことといたしました。

また、7月の夏休み前の5日間と8月の夏休み後の2日間に、市の職員と秋田中央交通様の職員のご協力によりまして、主な路線の乗降客調査を実施しております。系統や時間帯によりましては、いわゆる空バス状態となっている便もございまして、男鹿北線、男鹿中線、五里合線等で特に乗客が少ない結果となっております。

一方、8月には秋田県から、さらなる財政改革として、生活バス路線等維持対策費補助金制度の改正方針が示されました。この改正が実施されますと、現状のバス路線を維持して行くためには、更に市やバス事業者の財政負担が増大することになり、極めて厳しい財政状況に陥ってしまうことが予想されます。

8月の末には、第2回目の庁内検討会を開催しております。この中で、外部委託で将来の本市のモデル交通計画を示してもらう方針にしております。

その後、9月21日には、秋田中央交通様より本日の議事案件となっております市内関係8路線について、平成20年10月からの一部廃止申入れを受けております。

市では、10月18日に「男鹿市生活バス路線運行維持対策協議会」を開催しております。この協議会は路線バスの運行に関しまして生活交通の維持及び利用者の利便性の向上について協議・調整するため設置されたものであり、10月18日の会議では秋田中央交通様よりの廃止や減便の申し入れ内容の説明とともに、今後の県の補助制度の見直し動向や新たな公共交通体系構築の必要性を説明し、意見をいただいたほか、委員の方には地域に持ち帰っていただき、住民への説明についてお願いを申し上げたところでございます。

また、12月からは、東北運輸局の事業といたしまして、市内バス路線の乗降客調査と特に路線バスが公共交通の柱となっている地域で住民意向調査を実施していただいております。

それでは、本協議会設置要綱について、ご説明いたします。

この要綱に関しましては、昨年10月1日施行の「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」と「道路運送法」に基づき本市が設置したものでございます。主に地域の公共交通連携計画に関することと地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送に関することを協

議して行くことを目的としております。これらが、第1条と第2条に述べられております。

第3条には協議会の構成員、第4条は委員の任期で2年となっておりますが、今回は平成22年3月31日までとなっております。第5条は、会長と副会長2名について述べており、会長は委員の互選により定めることとなっておりますので、本日の会議で選出していただきます。なお、副会長は、会長が指名することとなっております。

第6条では協議会の運営について述べております。協議会は会長が招集し、出席委員の3分の2以上で議事を決することとしております。第7条は協議結果の取り扱いでございまして、「協議が調った事項については、その結果を尊重しなければならない」としてしております。

第8条には連携計画の作成等の提案、第9条には本協議会の庶務、第10条は補足となっております。

簡単ではございますが、以上で、要綱等に関する報告を終わります。

○下間事務局長

ただいま、畠山のほうから、最近の本市の路線バス等公共交通に関わる動きから要綱の内容について説明いたしました。何かこれに関してご質問等はございませんでしょうか。

なければ、「次第」5の議事に入りたいと思います。議長が決まる暫時の間、進行を努めさせていただきます。

まず、第1号の「会長の選任について」でございしますが、協議会設置要綱の第5条第2項では、「委員の互選により定める」となっております。いかが取り計らいいたしますでしょうか。

○二田委員

秋田大学の木村先生を推薦したいと思っております。

○下間事務局長

ただいま、二田委員から、木村先生を推薦する声がございました。それでは、お諮りいたします。木村委員を会長とすることにご異議ございませんか。

～異議なしの声～

異議なしということで、会長には木村委員を選任いたすことに決定いたしました。

早速で、おそれいりますが、ご就任に当りまして、一言ご挨拶をいただければ、幸いと存じます。それでは、よろしくお願いいたします。

○木村会長

会長をおおせつかりました秋田大学の木村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、男鹿市の公共交通を取り巻く環境が大変厳しいという事につきましては、先ほど市長さんのほうからお話をうかがっております。また、事務局からもお話をうかがいました。

この活性化協議会の委員は、行政あるいは交通事業者、利用者、地域住民等、いろんな人が参画して、様々な意見を出し合って、さらに交通の運用についてもいろんな工夫をしながら、地域に合った交通を考えて行こうということだと思っております。そういう意味で、私が会長を務めさせていただきますが、皆様からの忌憚のないご意見、ご参画についてお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○下間事務局長

それでは、ここからの議事の進行は、本協議会設置要綱の第5条第4項により会長か

らお願いしたいと思います。

○木村会長（議長）

承知いたしました。

それでは、議事を進めてまいります。(2)協議会規約の決定についてでございます。規約については、案が事務局から前もって送付されておりましたが、事務局のほうから簡単に説明してください。よろしくお願いします。

○畠山課長補佐（事務局）

それでは、ご説明いたします。資料の協議会規約案をご覧ください。

まず、第1条から第5条までは、協議会の名称、事務所、目的、事業、協議会の委員を記載しており、ほぼ協議会の設置要綱と同じ内容となっております。第6条と7条では、委員に変更があった場合の届け出及び委員への費用弁償について述べております。

第8条から12条までは、本協議会の役員に関することが記載されており、協議会設置要綱とほぼ同様であります。監事については2名を置くこととし、その業務について規定しております。また、第12条では役員の解任について規定しており、その手順等が記載されております。

第13条から第20条までは協議会の総会についての条項であります。第13条では、協議会総会の種類と臨時総会開催の条件などを規定しております。第15条では総会の議決方法などについて規定しており、総会開催には過半数の出席が必要なことと、議事は3分の2以上をもって決する等となっております。第19条では協議結果の尊重義務、第20条には総会の議事録について記載されております。

第21条と第22条は幹事会についての条項であり、「幹事会は後で述べます事務局長と会長が指名する10名以内で組織する。」となっております。また、幹事会の協議事項などについても規定しております。第23条では、分科会の設置について記載されております。

第24条から26条までは、協議会の事務局についての条項であり、事務局は男鹿市総務企画部企画政策課に置く、業務の執行方法はこの規約の他事務局規定と財務規定による等としております。

第27条から第33条までは会計に関すること、第34条は規約の変更、第35条は協議会が解散した場合の措置について規定しております。第36条は雑則でございます。

簡単ではございますが、以上で説明を終わります。

○木村会長（議長）

はい、ありがとうございました。

協議会規約の件で事務局から説明がありましたけれども、何かご質問等はございませんでしょうか。

それでは、お諮りしたいと思います。本協議会の規約は、この案で決定することにご異議ございませんでしょうか。

～異議なしの声～

異議がないようですので、規約はこの案で決定いたしました。ありがとうございます。

次の議事です。(3)副会長の指名についてでございます。副会長2名は本協議会設置要綱第5条第3項及び協議会規約第8条第2項により、会長が指名することになっております。そこで、私の方から指名させていただきます。男鹿中振興会会長の大高委員と副市長の伊藤委員の両名を副会長に指名させていただきます。副会長は、このお二人をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

次の議事に移りたいと思います。

次に、(4)議事録署名委員の選任についてお諮りいたします。協議会規約第20条第3項により2名の議事録署名委員を選出となっております。いかがいたしましょうか。

～事務局一任の声～

事務局一任の声がございますが、よろしいでしょうか。では、事務局のほうから願います。

○下間事務局長

それでは、事務局のほうから。

若美地区町内会長連絡協議会の石黒委員と市建設課の三浦委員を推薦したいと思います。

○木村会長（議長）

ただいま、石黒委員と三浦委員を事務局から推薦するということでございましたが、両名を議事録署名委員とすることにご異議ございませんでしょうか。

～異議なしの声～

それでは、議事録署名委員は、石黒委員と三浦委員に決定いたしました。よろしくお願いいたします。

次は、(5)監事の選任についてでございます。監事2名は、協議会規約第8条第2項で、委員の中から選任するということになっております。如何いたしましょうか。

○三浦委員（建設課長）

ハイヤー協会の諸橋委員と商工会の二田委員を推薦いたします。

○木村会長（議長）

諸橋委員と二田委員を推薦する声がございましたが、お諮りいたします。両名を監事とすることにご異議ございませんでしょうか。

～異議なしの声～

それでは、異議がないようですので、監事は、秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部長の諸橋委員と男鹿市商工会事務局長の二田委員が選任されました。よろしくお願いいたします。

次に、(6)事務局規程、財務規程の決定についてでございます。両規程については、規約同様、案が事務局から前もって送付されておりましたが、事務局のほうから簡単に説明をお願いします。

○畠山課長補佐（事務局）

それでは、ご説明いたします。

始めに、事務局規定（案）についてでございます。この規程は協議会規約第24条第3項の規定に基づきまして、事務局に関して必要な事項を定めるものでございます。内容は、本規定の趣旨、事務処理の原則、所掌事務、職員等、専決事項、文書の取扱い、公印の取扱い等となっており、第4条では事務局長を男鹿市企画政策課長に、事務局員を男鹿市企画政策課の職員としてございます。第5条では事務局長の専決事項を定めており、物品の購入や協議会運営に必要な契約の締結に関しても専決事項に含まれております。

次に財務規程（案）についてご説明いたします。

この規程は協議会規約第25条の規定に基づきまして、当協議会の財務に関して必要な事項を定めるものでございます。内容は、本規定の趣旨、予算、予算の補正、予算区分、予算の流用及び予備費の充用、出納及び現金等の保管、出納員、収入及び支出の手続、

決算等となっております。

第 2 条では協議会の予算は、男鹿市からの負担金と国等からの補助金、繰越金及びその他の収入で歳入とし、協議会の運営と事業に係る経費をもって歳出とするとしております。第 6 条では、「協議会の出納は会長が行う。」、「現金等は金融機関に預けなければならない。」としております。第 7 条では、「会長が事務局職員の中から出納員を命ずることができ、出納員は、会長の命を受けて、出納その他の会計事務をつかさどる。」としております。

第 9 条では、「協議会の決算は協議会の承認を得ること。」、「この承認を得るにあたっては、監事による監査を受け、その結果を添えること。」、「協議会の承認を得たときは、当該決算書の写しを速やかに男鹿市長に送付しなければならない。」等としてございます。以上で、二つの規程（案）に関する説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○木村会長（議長）

はい、ありがとうございました。

事務局規定、財務規程についての説明がおわりました。何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

それでは、お諮りいたします。本協議会の事務局規程及び財務規程は、この案で決定することにご異議ございませんでしょうか。

～異議なしの声～

ご異議がないようですので、規約はこの案で決定いたしました。

それでは、引き続き次の議事に移りたいと思います。(7)秋田中央交通株式会社から出されているバス路線の一部廃止についてでございます。申し出の内容について、秋田中央交通株式会社の齊藤委員から説明を願います。

○齊藤委員（秋田中央交通）

秋田中央交通の齊藤でございます。まずもって、昭和 27 年来（らい）、男鹿地域におきまして、皆様から大変愛されご利用いただきましたことに、厚く御礼を申し上げます。これからもひとつ、よろしくどうぞお願いいたします。

説明につきましては、着席の上、説明させていただきます。

それでは、配布されております私どもの平成 19 年 9 月 21 日付けの申入れ書の写しをご覧頂きたいと思います。

廃止の路線は、五里合線、男鹿北線、男鹿中線、男鹿南線、安全寺線、潟西線、男鹿温泉線、大潟西線の各路線となっております。廃止等の予定日は、本年 9 月末となっております。

理由につきましては、こちらのほうに書いてあるとおりでございますが、我々バス事業者といたしましても男鹿市あるいは県等から色々な補助を頂きまして、バスの路線維持に頑張ったわけでございます。しかし、補助金の仕組みとしては、収入から経費、いわゆる費用を差し引いた赤字の部分を補助していただくわけですが、これを全額補填して頂いているわけではございません。あくまでも赤字の部分の 4 分の 1 は我々バス事業者が負担しております。その赤字の部分の累積が随分膨らんできまして、もうこれ以上耐え切れなくなったということから、今回は、この中でも我々にとっては特に厳しい路線や路線の一部について廃止をお願いしたいというのが、主旨でございます。

バス路線は、みなさんご存知だと思いますが、非常に厳しい状況でございますので、この辺をご理解いただいてご協議いただきたいと思います。ただ、当社といたしましては、決して撤退するということは考えておりません。男鹿市にマッチしました低コストの交通手段がご協議される場に深く関わっていきたくて考えておりますので、ご理解頂きたいと思います。

それでは、個別の路線についてお話をしていきたいと思います。2 枚目以降にですね五里合線のそれぞれマーカーしている部分がございますけれども、この部分の路線を廃

止したいということでございます。ですから、路線全部廃止というのも一部ありますけれども、基本的には、言葉が適当であるかどうかありますけれども、いわゆる減便ということでご理解いただければありがたいなと思っております。

では、順番に説明してまいります。五里合線につきましては、左の部分の16:04みなと病院発で琴川上丁まで行く部分、それから、右側の上り線の分につきましては、上から2番目琴川上丁7:26発のこの便を廃止させていただきたいというふうに思います。それに伴いまして、琴川に行く部分がなくなる、空白部分が発生する可能性が出てくるというふうにとられますけれども、実際のところ、利用客が少なく大変厳しい状態でありますことから、そのところご理解いただければ大変ありがたいと思います。

次に、男鹿北線につきましては、やはりマーカーされております部分を減便させていただきたいと思っております。ただしですね、これにつきましても、水族館止まりが無くなるということで、加茂までは行くということから、水族館止まりのみの減便ということでご理解願いたいと思います。

それから、男鹿南線ですけれども、こちらの方はですね、実は朝、門前から出たバスがですね、一部みなと病院を経由しないで男鹿工業のほうへ輸送して行く便でございます。こちらの方につきましても、利用率が低いということから、廃止させていただきたいと思います。

次のページの男鹿中線、こちらの方はですね、マーカーの島田までの部分について廃止させていただきたい。

それから、男鹿温泉線、こちらの方につきましては、秋田駅からまっすぐ入道崎まで行っている路線でございますけれども、こちらの方も廃止させていただきたいということでございます。

それから、大潟西線、秋田駅の西口から大潟村の農業短大まで行っているバスでございますけれども、こちらの方も男鹿温泉線と同じように全面的に廃止させていただきたいということでございます。

また、安全寺線につきましては、一番上の真山から男鹿工業高校までの部分について廃止させていただきたいということで考えてございます。

しからば、実際の利用客はどの程度なのかということにつきましては、添付書類の(1)のほうをご覧頂いて、いわゆる輸送量について過去5年間の実績が載っております。これを見ましても、各路線でやはり減少傾向にあるというふうにご理解いただければありがたいなと思っております。それから、男鹿南線の男鹿工業までの部分につきましては、ですね、これ実は、必ずしも男鹿工業までの全区間について乗客が乗ってあったということではなくて、実際のところは、比較的男鹿駅以降は極端に乗客が少なくなっているということをご理解願えればありがたいなと思っております。

次に、添付資料(1)の②経営状況ということで、これはそれぞれの対象路線の経営状況でございます。経常収益、いわゆる収入部分と、費用、そのかかった費用、差し引きしますと経常損益、赤字となります。これが全ての路線で赤字となっていることをご理解願いたいと思います。

次に、添付資料の(2)、廃止路線の現況という形で、これも人員とそれから収益と合わさって、各補助金等合わさって書いてございますけれども、先ほども述べましたけれども、例えば一番上の五里合線のみなと市民病院から琴川上丁までの系統ですけれども、最近一番近い平成18年度、これで見ますと、収入が60万円、これを稼ぐために190万円と200万円近い額を懸けております。結果として、130万円強の赤字となっております。しかし、これについては先ほど言いましたとおり、全額が補助金で補填されているわけではございません。ということから、事業主負担が35万円弱発生しております。このような状況でございます。いわゆる収入から支出を引いて赤字になって、補填があってもまださらに赤字になるというような状況でございます。こちらの方につきましては我々の自助努力でやっていかなければいけないというふうな状況であるということ、なんとかご理解いただきたいと思います。

あと、この中から、資料(2)の1の大潟西線ですね。この辺は、実際に普段利用される男鹿の方は、言葉足らずで恐縮ですけれども、そんなに直接的な影響はあるのかなとい

う思いがあります。それから、潟西線もここに出ておりますけれども、実は東湖幼稚園、ここに行く便につきましては3月末で廃止させていただきたいというふうなことを考えております。

以上、あくまでも利用率の低い路線のまずは減便という形であるということを是非ともご理解していただいた上で、ご協議いただければ大変ありがたいと思います。以上でございます。

○木村会長（議長）

ただいま、齊藤委員から説明がございました。皆様から質問や意見を伺う前に、事務局から補足説明がございます。よろしく願いいたします。

○杉本主幹（事務局）

企画政策課の杉本でございます。

ただいま説明のありましたことに、若干の補足説明をさせていただきたいと思います。先ほども申し述べましたが、10月18日開催された「男鹿市生活バス路線運行維持対策協議会」において、バス事業者であります秋田中央交通から同様の説明をいただきましたが、10月15日～11月1日にかけて市内9地区において「町内会長等市政懇談会」を開催して、バスの路線の一部廃止等について市で説明をしております。地域としては現状確保が望ましいとの要望もありましたが、利用状況やバス事業者の経営状況、それから市の負担の増などを勘案するとやむを得ないものと理解していただいたと思っております。

また、1月に入りまして、このそれぞれの路線の対象町内会長さんに再度連絡し再度確認したところ、概ねやむを得ないとの返事をいただいておりますが、五里合線の箱井・琴川間が、先ほどもありましたけれども、公共交通の空白地帯となるため、琴川の町内会長さんからは、住民の足の確保のためには、何らかの施策を講じていただきたいと、このような申し出を受けております。

市といたしましても、公共交通の空白地帯をつくるわけにはいかないものですから、何か施策が無いかということで、色々内部で協議をいたしました。それで、スクールバスの活用について現在教育委員会と協議中であります。

このスクールバスですけれども、学校統合の関係で、五里合中学校が潟西中学校と4月から統合するということで、箱井・琴川間についてもこのスクールバスの運行がございいます。これに一般の方も乗降もできるよう、また20年度中に作ります連携計画で、この地域がどのような位置づけになるか今のところ不明ですけれども、実証運行を開始するまでの当面の間、10月から3月までになりますけれども、試験的に無料で乗降できないかなどについて、今協議している最中でございます。

教育委員会といたしましても、学校関係者との調整などがあり、正式な回答は頂いておりませんが、概ね一般の方が無料で乗降できるような方向で今現在進んでいると伺っております。なお、教育委員会から正式な回答がありましたら、琴川の地域、箱井地区の方々に、この辺の事情を周知してまいりたいと考えております。

以上説明を終わります。

○木村会長（議長）

はい、ありがとうございました。事務局から、廃止提案について、地域の考え方とか提案を受け入れた考え方とそれから、代替運行の案などについて補足説明をいただきました。

それでは、何かこの件につきまして、質問や意見はございませんでしょうか。

○大高委員（男鹿中振興会）

資料の添付書類(1)経営状況、過去5年間の損益状況、単位が千円となっておりますが、円じゃないですか。

○齊藤委員（秋田中央交通）

ああそうですね。申し分けございません。

○木村会長（議長）

その他に、ご意見ありませんでしょうか。

○諸橋委員（秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部）

中央交通さんにちょっと伺いたいんですが、今回のご提案につきましては、一部路線としては、全廃路線もありますが、他の路線についてはまだら減便という具合に理解しています。そのような局所的な減便をしながら路線を確保することによって、御社様のほうの経常的な支出超過あるいは赤字補填分、事業主負担分が改善できるんですか。恒久改善になるんですか、この程度の減便で。

○齊藤委員（秋田中央交通）

大変痛い所をご指摘していただいて、実ははっきり言って非常に厳しいです。

これは最初に申し上げましたが、実は私どもの社長からも厳命を受けております。男鹿市は、秋田中央交通を育ててくれた地域です。この辺について、一気にやるというのは、はっきり言って、心証的に中央交通の気持ちとしても断行できない。

ただ、廃止を申し出で、一部減便という形ですけれども、廃止を申し入れすることによって、男鹿市にマッチした交通手段とはどんなのかなというふうにお考え頂く良い機会でもあり、かといって我々が全然やらないという、撤退するということにしても、みなさん利用者の方にご不便をかけるわけにはいかない。理解が得られることではない、ということで、是非ともこれを機会に男鹿市にマッチした交通手段等をお考え頂きたい。その中で、やはりわざわざ大きいバスを走らせなくてもいいということなど、いろんなご意見があると思います。我々も収支は当然考えなければならないわけですけれども、やはりやって行けるところはやって行くというふうに考えています。まずは、少しでも赤字のある部分をまずは減らしたい。当然赤字になっていくということでバスを減便するということは収入が減るということでありまして、相当我々にとっても痛手であることは十分に判っております。しかしながら、いわゆる金額的なものだけで言いますと、はっきり申し上げまして、全部赤字の路線であります。今まで公共交通という旗を背負って商売していたのであり、そんなことでいいのかなというところもあるものですから、まずはこれでもって状況を見てみたいというふうに考えております。

○木村会長（議長）

はい、どうもありがとうございます。

○諸橋委員（秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部）

道路運送法が改正されて、減便並びに路線の廃止については公共交通会議に付託されて、その地域の会議での決定という形になって、ブロック会議に送られるというわけですが、この後の男鹿市の会議の後の案件にありますけれども、いわゆる国庫補助金を利用しながら新しい交通体系を模索するということを提案されるようです。そうすれば、今、齊藤さんがお話なされたように、新しい交通体系に移行された段階で、現在の赤字路線が再度廃止又は減便という形のものが、この公共交通会議のほうに当然出されるのではないかと予想できますが、その点はいかがですか。

○齊藤委員（秋田中央交通）

いわゆる、そのような場としてこの会議があるということを認識しております。

○石垣委員（北浦地区郷中会長連合会）

前に、路線をバス廃止ということでも、基準の枠ということがあって、いくらでも減らすということになれば、補助の対象となる便の数があるから、それ以上は減らさ

れないんだというようなお話があったんですけれども、こういうふうには減便するというと、国庫補助というものの関わりがどうなるか。今の国全体の過疎対策については、こういう路線について国庫補助を何とかしなければならぬというような意見が出ているわけですが、そういう見通しはないのでしょうか。

以前は、いくらでも減らしてもいいということになれば、補助申請するときに、対象にならないということの説明であったものですから。

○齊藤委員（秋田中央交通）

私のほうから、中央交通が答えるものかどうかちょっとありますけれども、実は今回の路線については国庫補助金の対象でなく、最終的にはあるでしょうけれども、いわゆる目に見えるところでは県単補助の部分でございます。ここについては、県単補助というのはいわゆる県の単独補助分で、県から頂いている補助を代表する部分であると私も認識しておりまして、この中で県のほうの財政が厳しいというふうな形、それから補助金等についての見直し論議が結構出ている中で、その補助金制度そのものについても見直しがあるとか聞いておりまして、それがあると更に事業主負担が減るところが増えて、倍以上になっていくのではないかなというふうに思っております。

その中で、事業としてバスをやっているからには、やはり企業の存続というのがございまして、その辺を考えますとやはりある意味そろそろというか、今まで頑張ってきた訳ですが、手を打たなければというふうな状況でありまして、必ずしも補助金があるからという部分よりも、ネットで儲けられるか儲けられないか、その辺を経営上、その辺まで考えて行かなければならぬところまで追い込まれているところをご理解願えればありがたいと思います。

あと、補助そのものの今後の見通しについては、私の方で分かりませんので、よろしくをお願いします。

○二田委員（男鹿市商工会）

今、数字を見てびっくりしている訳でございますけれども、大変経営が厳しくなっていく感じがしますが、ちょっと今日、観光協会が来ておりませんが、男鹿温泉線が全面廃止ということを知りたかったけれども、この部分が大きい損益を占めている感じがしますが、今、男鹿市としても官民一体となって観光振興に取り組んでいる最中なんですけれども、そういう中で、停滞感を深めかねない廃止によって観光に対する影響というものがあるのか。廃止申入れ前に中央交通さんが関係団体とこういう形で、全面廃止にするという話し合いを持たれたのか。その辺をちょっと、気にしながら、後でまた質問したいと思いますが、もし、若干関連があるとすれば、例えば、土日だけの生活支援としての廃止が出来るのかどうかという点をお聞きしたい。

○齊藤委員（秋田中央交通）

添付書類の(1)の①、輸送量過去5年間の実績のなかで、二枚目の一番下に男鹿温泉線というのがございます。みなさん、ご覧になった時にお分かりなつたと思いますが、バスは秋田駅の西口から出ており、実際のところグリーンランド辺りであとほとんど空です。ですから、この人数のほとんどは秋田市内で稼いでおります。

それから、先ほどおっしゃった観光という部分ですが、私も男鹿の観光には非常に魅力を感じておりまして、これについてはまた、路線という形よりも、貸し切りというか、観光というか、そういう形で考えております。そちらの方につきましては、若干の変更等がありますけれども、男鹿の定期観光という形で、きちんと予約を承った上で走っているという形で観光の路線は維持したいなと。これから最終的な詰めはありますが、貸し切り等の部分で対応したいなと思っております。

○二田委員（男鹿市商工会）

はい、分かりました。

そうすれば、貸し切り定期観光についても、この資料の対象になっているのですか。

○齊藤委員（秋田中央交通）
入ってないです。

○二田委員（男鹿市商工会）
入ってないですか。その部分の損益は、どうなっているのですか。

○齊藤委員（秋田中央交通）
定期観光ですか。定期観光はいわゆる単純に乗務員等としての経費等ですけれども、いわゆる赤字です。ただし、赤字をかけながらも、やっぱり我々にとって、秋田市で一番近い観光地と言えば男鹿市と捉えておりますので、事業者として、何とかして行かなければならないなと思っています。定期観光については、自助努力でコスト削減を考えており、各旅行会社さん等には働きかけています。

○二田委員（男鹿市商工会）
ありがとうございます。よろしく、ひとつお願いいたします。

○下間事務局長
今の二田委員さんのご心配されている部分について、この後、事業計画の中で 20 年度の国庫支援事業として取り組み、連携計画策定の支援業務という委託の中で、対象業務の中に観光振興も含めたモデルプランとして行きたいと考えております。

○木村会長（議長）
はい、どうもありがとうございました。
他に、何か質問やご意見はございませんか。

○大滝委員（秋田運輸支局）
先ほどのお話の中で、この協議会の意義といいますか、赤字路線バスの廃止がまた俎上に登ることになるのかというようなお話があったわけですが、当協議会は地域公共交通活性化再生法に基づく協議会でもあり、活性化再生法自体はその地域に合った交通体系という形が基本にありますので、廃止の点で協議するのではなく、その地域に合った交通をどのように考えていくかあるいは構築して行くかというような方向での組織という形になっておりますので、この辺のところをご理解いただきたいなと思います。

○木村会長（議長）
はい、どうもありがとうございました。

○諸橋委員（秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部）
先ほど齊藤委員からのお話ですと、社長の個人的温情をもってこの赤字路線を当分の間維持するということなんですが、この後、県単補助も明らかに減額されて行きますし、その他に直接的な補助金が無いわけですから、これまでバス事業者の公共輸送機関という美名の下に、その事業者の赤字をもって地域交通を維持したという、それをもう 1 回見直してですね、きちんとした事業体として採算性が成り立つような運送事業に変えて行かなければならないということが前提になればいけないということですね。要するに最終的には、本来のこの路線が将来は無くなるのだと思って考えて、それに代わるのをどうするかという事がこの後の議論だと思うんです。

ですから、今回の路線の廃止等々については、そういう渡邊社長の温情にすぎた地域交通、そういうものは異常な感じですね、あってはならないそういうものからとりあえず今回の路線廃止及び減便については、これはもう認めていかざるをえないでしょう

し、また、仮にこの会議でそういう結論が出たとしても、潟上市や秋田市などとも関連がありますから県の方の調整の中で、最終的にその路線の廃止とか減便が決定されると思いますけどね。先ほど言ったように、こういう歪な形での輸送体系を是正する意味からも含めて、中央交通さんのご提案については賛成申し上げます。

○木村会長（議長）

その他、ご質問・ご意見等はございませんか。

特に、ご意見が無いようですので、それでは、秋田中央交通株式会社からのバス路線の一部廃止等の申し出について、当協議会として、これをやむを得ないものと認めることにご異議ございませんか。

～異議なしの声～

ご異議がないようですので、ただいまの一部廃止等の申し出について、やむを得ないものと認めることに決定いたしました。

次の議事の方に入ります。(8)平成 20 年度事業計画（案）についてでございますが、(9)平成 20 年度予算（案）についてと一緒に、事務局の方から説明願います。

○杉本主幹（事務局）

それでは、20 年度の事業計画（案）と予算（案）について、順次ご説明いたします。

中央交通さんの資料の後ろに事業計画（案）がございます。当協議会の会議と事業についてタイムスケジュールに基づいてご説明いたします。

まず、2 の事業の方をご覧ください。本日の設立総会后、地域に合った交通体系を構築するための「連携計画」策定のため、活性化と再生に関する法律に基づく補助申請を 3 月に予定しております。この申請の承認については 5 月の連休明けに通知されると伺っております。これを受けて 6 月に公共交通専門コンサルタント等に計画策定について委託してゆきたいと考えております。

資料にはございませんけれども、委託の内容について若干申し上げます。去年の 12 月から国の直接事業でアンケート調査と乗降調査を実施しております。このアンケート調査の調査区域以外の地域ですけれども、船川、脇本、船越地区の全部と北浦地区の一部についてアンケート調査を実施しておりません。その未実施の地区は 7,500 世帯程ありますので、その 7,500 世帯の路線バスの利用状況や必要性などのアンケート調査を実施し、今年度 12 月に実施したアンケート調査とバスの乗降調査を併せて、総合的な分析を行って、地域に相応しい交通体系を構築して行きたいと考えております。そして、結果的には 21 年度から 23 年度までの近い将来に何を行うべきなのか、24 年度以降には何を行うべきなのかということを区分しながら、今後の事業計画を立案するとともに、観光都市である男鹿市としては、観光客の誘致やその二次アクセスをも考慮して、交通体系を計画してまいりたいと考えております。

次に、上の会議の方ですけれども、この計画の素案を 9 月頃までにコンサルタントから提案していただきたいと考えております。その素案が出来ますと、分科会、幹事会を開催し、その内容について充分協議してまいりたいと考えております。協議が調って方向性とかが固まりますと、12 月に総会開催し、その計画を中間報告として、総会に懸けてゆきたい、報告してゆきたいと、こうゆうふうに思っております。その素案について充分協議して頂き、その素案に修正を加えまして、21 年の 2 月頃を目処に将来の本市の公共交通ビジョンを総会に提案してゆきたいと考えております。

以上が 20 年度の概略の事業計画（案）であります。

次に、予算（案）についてご説明いたします。次のページをご覧ください。

最初に収入についてであります。協議会の運営費などの相当額 589 千円について、市から負担金として頂き、先ほど申し上げました事業の委託に係る経費 9,345 千円、見積り額であります。これを国からの補助金として計上しております。合計で 9,934 千円を収入合計額とするものであります。

次に、支出ですけれども、会議費として協議会の運営費 564 千円とその協議会の通知にかかる経費等の事務費 25 千円、そして委託に係る経費 9,345 千円を事業費として計上しております。支出合計を収入合計と同額の 9,934 千円といたしております。

以上が予算（案）であります。よろしくお願いいたします。

○木村会長（議長）

はい、ありがとうございました。

ただいま、20 年度の事業計画と予算の両案について説明がありましたが、何か質問や意見はございませんでしょうか。

○諸橋委員（秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部）

この連携計画策定支援委託契約 9,345 千円がありますが、これは国土交通省の活性化プロジェクト関連の事業だと思います。ここに上程されるには、当然、事前に突合せがあって、上程されたと思いますが、多分仙台にあるあのコンサルタント会社がこれをするかと思います。その分、全部丸投げでコンサルタント会社にやるんですが、その中に協議会並びに市関係者のいわゆる地域事情に詳しい方が、今までの他の地区の例ですと、ほとんど関与しません。どこの地区かは言いませんが、かなり机上論理的な答申が出る恐れが多分にあると私は理解しております。そういう意味で、この答申が出る中で、地域の中のいろんな方、その利用者も勿論そうですが、事業者を含めた、事業者がどういう公共交通サービスを提供できるのかとか、それによってどういう新しいようなシステムを構築できるのか、これが仙台や東京の方が、はっきり言って、分かるはずが無いんです。そういう懸念がありますから、それについての市の方のお考えをお聞きしたいのと、さらに、新しい交通システムを提案されると思うんですが、その結果、その分についての県単補助も勿論ありませんし、その後の方向付けもありません。つまり、市の単独部分を、いわゆる市事業になるわけですが、福祉事業とみなしてこの地域交通体系をやるとすれば、市の心構えというか、とことん地域住民の輸送体系を市費で賄いますよという市の財政に関わる負担をする決意などを含めてお聞かせいただきたい。

○木村会長（議長）

ただいま、事業費の中の委託のところで、担当する受託者のことについてとか、地元の方の意見をどうやって汲み取るのか、それからその後の公共交通体系の提案を受けた上での公共交通の維持の考え方ということで質問がございましたので、市のほうからお願いします。

○杉本主幹（事務局）

はい、先ほど事業計画でお話していた中で、素案が 9 月頃出来てくる予定です。また、最終的には 20 年度のコンサルタントとの委託について 2 月までの業務期間として契約したいと考えております。ですから、そこまでの間に、分科会、幹事会を開催し、地域住民そしてバス事業者、県や国の考え方、市としての考え方、この辺を充分その中で協議して、地域にあった交通体系を作って、それを 9 月頃協議会のほうに一回、中間報告という形で報告して行きたいなど、その中で、多分また色々なご意見があらうかと思えます。そのご意見に基づいて、最終的に修正を加えながら、連携計画を 1 月・2 月頃を目処に策定して行くと、こういう段取りで今考えております。

それから、福祉の件とか色々ありましたけれども、これからアンケート調査を行い、その地域で何が必要で、どれくらいの人を何を目的として、どういう公共交通を必要としているのかということが、アンケート調査等で見えてくると思えます。それを民意として汲みながら、今後の計画作りに参考にさせていただきたいと、このように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○木村会長（議長）

関連した質問ですけれども、分科会あるいは幹事会の設置はどのように考えておりま

すか。

○杉本主幹（事務局）

規約の中に、幹事会と分科会の設置についてございます。幹事会については、会長が指名する 10 名以内で、協議会に懸ける案件等について協議するとなっております。分科会については、その幹事会の下にあるような形となっております。諸問題について、地域住民等も交えながら、分科会で協議して行きたいと思っております。

○諸橋委員（秋田県ハイヤー協会男鹿・南秋支部）

事業者として、希望を申し上げさせていただきたいと思います。他の法定協議会の方で出されたコンサルタント会社のひとつの素案というものはですね、いわゆる道路運送法上の 4 条事業者、あるいは 21 条事業者、色々道路運送法的に違うんですが、コンサルタント会社がその辺の事情をご存知無い様で、ただ貸し切りでやるという主張のもとに出される懸念がございます。コンサルタント会社に 900 万円も使って素案を出すのであれば、きちんとしたその条令的な精査をしながら、受け皿的な事業主体が単独企業でやるのか、あるいは市が委託事業としてやるのか、どうも他の市、これまでの例からすると、後は事業者、企業に赤字も含めて丸投げにして、市の責任が何も無いよというような形の方向性が出ていると私は思うんです。

ですから、私がさっき言ったのは、その後も利用者個人に交通災害があった場合に、被害者の損害救済、利便的なものを含めて、救済を市がとことん面倒を見る枠組みがあるのかどうかも含めた中で、新しい公共交通体系、その受け皿である事業者の法定的な要件、文書の中での素案としていただくように強く要望させていただきたいと思います。

○木村会長（議長）

よろしいでしょうか。

○下間事務局長

諸橋委員のおっしゃることは、よく分かりまして、要望という形で、今後検討してまいりますのでよろしくお願いしたいと思います。諸橋委員におかれましては他市の状況も把握しておられ、私どもにとっては、先駆けされている方と感じられております。

まずはコンサルに委託して、モデル的な案を出していただきまして、この協議会で皆様のご意見をいただきながら、より良い計画としてゆきたいと考えております。今後、厳しい意見もありますでしょうが、それらを充分検討しながら、財政事情もこのような状況でもありますし、それらも踏まえながら、市民要望に応えるため、地域の実態に即したこの法律の主旨の目指すところに向かってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○木村会長（議長）

その他、ご意見等はございませんか。はい、どうぞ。

○鎌田委員（男鹿交通）

今、中央交通さんから出してもらった資料ですけれども、一部廃止のところを見たら、わずかな区間です。地域外の人はおらないでしょうけれど、箱井と琴川、今そんなにこれだと、何もコンサルタントもみんなが心配するようなものではないじゃないですか。入道から秋田というのは、やはり、観光客のための路線ですから、地元のお客さんはあまり乗らないから、何も驚くような廃止ではないです。だから、900 万もコンサルタントに払わせるより、地域の人たちで話し合って、その金を中央交通にやるとかして、継続してもらえば良いのではないかと。コンサルタントに、こんな僅かな事で 900 万円も払うとしたら、それを中央交通さんにやったら、どんどん走るんじゃないですか。中央交通さん、どうですか。

全線廃止ということになれば、協議会を開いてコンサルタントを頼んで、完全にみんな

なで危機感を持って協議してゆかなければならないが、今これだったら僅かの区間で、3km から 4km ですから、何も協議会に懸ける必要が無いと思います。

○杉本主幹（事務局）

今の 900 万のお話については、男鹿市における全体の地域に相応しい新たな交通体系を構築して行くということのための計画策定に係る費用であります。

○鎌田委員（男鹿交通）

将来、全線を廃止するということですか。

○杉本主幹（事務局）

いや、違います。路線バスを含めた全体の交通体系をどうするかということを計画して行く上で、必要として計上した 900 万円であり、今の箱井と琴川間とか、そういうことを全部含めた形で考えて行くものであります。

○鎌田委員（男鹿交通）

今回の申し入れでは、何も問題にするところは無いように思われます。僅か 2km か 3km のところを一日一本止めたからって、それにはジャンボでもタクシーでも走れるから。

○下間事務局長

今まで、全部説明してきたつもりですけども、中央交通さんから市全体のバス運行事業に関して非常に厳しいという中でのお話もありました。現在、21 系統という運行形態で市内きめ細かく中央交通さんのバス運行で、市民の足の確保をしているわけです。そういう中で、経営も厳しいし、今後、県の補助金の制度も見直しされるため、新たに地域の実態に即した公共交通体系をつくりあげていくものであります。

○鎌田委員（男鹿交通）

すみませんけれども、市の補助でないですか。

○下間事務局長

県も補助しています。

○鎌田委員（男鹿交通）

書いていないです。ということは、男鹿市の新聞に、9 千万円くらい行っているでしょう。そうすれば、書かなければならないでしょう。県も出しているし、男鹿市だって 9 千万円くらい行っているんですから。

○下間事務局長

県の財政改革の中で補助基準も見直しされるし、補助金の額も見直しされ減額されて来る見込みであります。

そういう中で、基準、例えば路線ごとに何人乗っていれば対象になるのかという部分があるんですけども、3 人の部分が削られたり、今度 5 人とかという基準になってくるんです。そういう中で、今 21 系統の中で、2 年後くらいになれば、ほとんどの路線が補助対象から外れると見込まれております。そうなってくれば、市も事業者も負担が大変になって、今の形態では維持できなくなってしまうということで、今からその対策を講じましょうということで、今の活性化再生法を目指すところの地域実態に合ったどういう形態が良いのか、それを皆さんで考えながら、作っていきましょうというこの協議会にお願いする部分であります。

○鎌田委員（男鹿交通）

ああ、そうですか。今のこの部分だけでなく、全体の将来の計画ということですね。

○下間事務局長

だから、段階的に来年ももしかすれば、中央交通さんは間引きを含めてどこかの路線を廃止したいという話が出るかもしれない。

○鎌田委員（男鹿交通）

そういう話ははっきりしないと。

○齊藤委員（秋田中央交通）

ちょっと、勘違いなさっている部分があるんじゃないかと思います。県単補助以外に男鹿市単独の補助金が別枠であるということではないですよ。

○鎌田委員（男鹿交通）

そうなんですか。男鹿市の新聞を見ればね、中央交通さんへ9千万も出しています。

○齊藤委員（秋田中央交通）

我々は、男鹿市さんから貰っているんです。

○木村会長（議長）

中央交通さんの負担も他に多少あるということで、赤字なんですね。

○石垣委員（北浦地区郷中会長連合会）

9千万なり9千5百万なりを男鹿市が負担していると。

○鎌田委員（男鹿交通）

そうすれば、合計すればいくらになるの。

○齊藤委員（秋田中央交通）

我々は県単補助を、男鹿市経由で貰っているんです。

○鎌田委員（男鹿交通）

ああ、そうですか。

○木村会長（議長）

よろしいでしょうか。協議会としては、そういう男鹿市全体の公共交通を見て行くということで、今回の中央交通さんの提案もありますけれども、将来の公共交通を協議して行くということです。

その他、ご質問やご意見はありませんか。

○石垣委員（北浦地区郷中会長連合会）

分科会や幹事会とかこれから色々開かれるわけだけでも、コンサルタントの素案に対する意見等について、小型バスとか乗合バスとかをやるとか、様々高齢者のためのバスについての意見が出るとは思いますけれども、幹事会あるいは分科会ではそういうところまで検討して参りたいなと思います。

○木村会長（議長）
わかりました。

○齊藤委員（秋田中央交通）

廃止ありきでどうするかではなくて、今ある公共交通の中で、なんとしたら乗るかということをお考えいただければありがたいと思います。

実は、乗らないから廃止せざるを得なくなるのであって、人が減ったり、マイカーの普及もあるんですけども、結果としてマイカーで行ってしまうからバスに乗らなくなった。その結果として、廃止せざるを得なくなった。というふうな事があるということをご理解いただいて、しからば、マイカーで歩くと CO₂ 増大に繋がるなどと騒がれている中で、1 台で 1 人の時よりも公共交通でちょっとした車両に 10 人乗っていったほうが当然 CO₂ の排出も少ないし、コストも安くなるわけですね。そうすれば、なんと乗っていったらいいかと、あるいはこの地域から 30 人乗りのバスを止めて 10 人乗りのバスにする、というふうな事を話し合う場として私は捉えておりますので、どうすればバスに乗る人が増えるかということも考えてもらえば助かります。

○鎌田委員（男鹿交通）

だから、メインになる路線は廃止しないよとか、合わなければメインになるものも廃止するとか、そういうことを想定して行かないと。

○石垣委員（北浦地区郷中会長連合会）

案にそういうことを入れていくということだと思います。

○木村会長（議長）

今、廃止になってからではなく、みんなで考えいろんな方が協議してですね、新しい公共交通体系を作っていくということで、いろいろな方に意見を出していただくあるいは行動してもらうということも含めて、この協議会を進めて行くということでお願いしたいと思います。

その他、ご質問ご意見はありませんか。

もしなければ、お諮りしたいと思います。平成 20 年度の事業計画と予算は、ただいまの案で決定してよろしいでしょうか。

～異議なしの声～

ご異議がないようですので、この案で決定いたしました。

以上、議事事項はこれで終わりです。長時間に渡る協議ありがとうございました。

○下間事務局長

先生、ありがとうございました。

次に、6 番にありますその他に入らせていただきます。委員の皆様から、この際何かございませんでしょうか。

なければ、事務局から報告とお願いがございます。先ほど幹事会の話が出ておりましたけれども、本来、ここで幹事を決定させていただければよかったんですけども、そこまで至らなくて申し分けありませんでした。後日、会長と事務局長で調整させていただき、組織したいと考えておりますので、その辺についてよろしいでしょうか。

～異議なしの声～

それではよろしくお願ひいたします。

それでは、他に無ければこれもちまして、本日の会議を終わらせていただきたいと思います。本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

午前 11 時 40 分閉会

署名

会議の次第を記載し、これに相違ないことを証明するためここに署名する。

平成 20 年 3 月 5 日

会 長 木村一裕

委 員 石黒茂雄

委 員 三浦源藏